

「教員免許状更新講習（選択領域 18 時間）」

～学級経営に活かす豊かな体験活動～

1. 趣旨

様々な立場の講師からの講義を通して、学習指導要領改訂を踏まえた、最新の教育動向を学びながら、体験活動の重要性を理解するとともに、本所で行われている体験活動プログラムを実際に体験する実習を通して、体験活動の必要性や有用性を実感するとともに、教員としての資質向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日 令和2年7月23日（木）～7月25日（土）

(2) 参加者 教員免許状取得者 27名

①校種 小学校 12名 中学校 11名 高等学校 2名 特別支援学校 2名

②男女別 男性 16名 女性 21名

③都道府県別 群馬県 15名 栃木県 5名 埼玉県 3名 茨城県 1名
千葉県 1名 神奈川県 1名 新潟県 1名

3. 企画運営のポイント

- ①「避難所運営ゲーム」や「防災食体験」など防災教育に焦点を当てたプログラムを実施する。
- ②「クラフト」や「ビジュアルオリエンテーリング」、「グリーンアドベンチャー」など参加した教員が学校・学級にもちかえってすぐに実践でき、その効果を体験できるように実施する。

4. 日程

	午前	午後	夜
7月 23日 (木)	講義「学校教育の現状と課題」 講師 群馬県教育委員会 義務教育課長 栗本郁夫	講義「熱中症予防対策講義」 講師 国立赤城青少年交流の家 主任企画指導専門職 塩原基寧 大塚製薬工場 別島徹憲 講義・実習「ビジュアルオリエンテーリング」 講師 国立赤城青少年交流の家 所長 松村純子	
7月 24日 (金)	講義・実習「グリーンアドベンチャー」 講師：主任企画指導専門職 塩原 基寧 講義・演習「防災教育プログラム体験①」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職付 反町峻 日本防災士会群馬県支部長 飯塚宗夫	講義・演習「防災教育プログラム体験②」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職付 反町峻 日本防災士会群馬県支部長 飯塚宗夫	講義・実習「野外炊事」 講師 国立赤城青少年交流の家 主任企画指導専門職 塩原基寧
7月 25日 (土)	講義「学校教育における体験活動の意義」 講師 亜細亜大学 国際関係学部 国際関係学科 特任教授 大久保俊輝	履修認定試験	

	実習「クラフト」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職付 反町峻		
--	---	--	--

5. 主な活動内容



「学校教育の現状と課題」



「熱中症予防対策講義」



「ビジュアルオリエンテーリング」



「防災教育プログラム体験」



「野外炊事」



「学校教育における体験活動の意義」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 26人 (96%) やや満足 1人 (4%) やや不満 0人 不満 0人

(2) 参加者の声

- ・「学校教育の現状と課題」では、コロナ対応について学びました。「深い学び」について参考になりました。
- ・「熱中症予防対策講義」では、熱中症についてよく分かりました。緊急時に役立たいと思います。
- ・「ビジュアルオリエンテーリング」を実際に体験することにより、観察力やコミュニケーション能力の向上につながると実感しました。
- ・「グリーンアドベンチャー」では、グループの人と協力してコミュニケーションをとることができました。けが人やの対応や事前準備の大切さを学びました。
- ・「防災教育プログラム体験」では、体験して楽しさが実感できました。ここで得た知識を子供たちに伝えて、生かしたいです。
- ・「野外炊事」では、コロナ対応で、個別食等多くの経験ができて良かったです。安全面に十分注意して実際に行えると良いと思いました。
- ・「学校教育における体験活動の意義」では、体験活動の意義を学び、達成感や、楽しかった、またやりたいそういったことが今後に生かせるヒントになりました。
- ・「クラフト」は自然物を生かして様々な体験ができることが分かりました。

(3) 成果

コロナ禍での対応や防災に関する体験活動を意識して、プログラムを組むことで、参加者自身が、自校での、コロナ対応や防災計画等に積極的に関わろうとする意欲をもたせることができた。

オリエンテーリングやクラフトなど、学校にもちかえってすぐにでも取り組めるプログラムを紹介することで、講習での学びを実践しようとする意欲をもたせることができた。

(4) 課題

防災プログラムは参加者にも好評だった。コロナ禍で密になることも考えると、実習的な要素のプログラムも開発していかなければならない。

担当：主任企画指導専門職 塩原 基寧